

kanamoto ■ カナモトエグザミネー examiner

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



第42期第3四半期号

vol.37 contents

News Headline	2
今年の梅雨を暑く変えたCONET2006 ほか	
Lineup	4
取扱商品のご紹介	
Column	5
カナモトのCSRの取り組み『環境編』ほか	
3rd Quarterly Report 2006	6
第42期第3四半期財務・業績の概況	
Shareholder's Q & A	10
株主様からの質問に答えるQ & Aコーナー	
Investor Information	11
株式情報	



今年の梅雨を暑く変えたCONET2006

7月13日から16日まで幕張メッセ(千葉県美浜区)で開催された「CONET2006」。“国内最大”の建設機械・施工技術展示会の今年の来場者数は、4日間で約1万8,000人にのぼり、当社ブースにも大勢の方々にお越しいただきました。

当社はハイブリッド投光器や電気自動車「コムス」、バイオガス利用のマイクロガスタービン発電機など、今展示会のテーマである「環境・防災・安全」を体現する商品をラインナップ。なかでも高規格の負圧集塵機をはじめとするアスベスト対策機器にはより多くの関心が集まり、アスベスト粉塵除去のデモンストレーションを見学された方から「公害対策機が充実していて好感が持てる」というご感想もいただきました。

また、屋外ブースで行った新型橋梁点検車「橋竜」のデモ

ンストレーションでは、ブーム先端に取り付けたCCDカメラの映像がモニターに映されると「すごい!」と歓声上がる一場面も。皆様のご意見を直接聞くことが出来るこのような展示会への出展の重要性を、改めて認識した4日間でした。

さて、小誌発刊直後の10月24日～26日には、東京ビッグサイトで「アスベスト対策環境展 06」が開催されます。当社も出展を予定していますので、ご来場の際はぜひ当社ブースにもお立ち寄りください。

詳細は<http://www.asbex.jp>をご参照ください。☑



橋梁点検車のデモンストレーションに沸いた屋外ブースの様子

2つのIRイベントに出展しました



日経IRフェアでの当社ブースの様子

CONETに続き7月21日・22日には、東京ビッグサイトで開催された「日経IRフェア2006」にもブースを出展しました。当社を含む企業約100社が一同に会したこのイベントも、2日間

で約15,000人の来場者が訪れる大賑わいぶりでした。当社はブースでの資料配布・ご説明のほか、特設会場で行われた企業説明会で、事業概要や直近の業績、今後の展開などをご来場の皆様にご説明申し上げました。また、22日は虎ノ門パストラルホテルで開催された日本人投資家協会(JAII)の会員大会でもIR活動を展開。今後も投資家の皆様とのコミュニケーションを大切に、積極的なIR活動を行ってまいります。☑

苫小牧営業所整備工場が自動車分解整備事業認証工場に

当社苫小牧営業所整備工場(所在地:苫小牧市新開町、赤羽所長)が北海道運輸局長認証工場として認証され、去る8月9日に北海道陸運局室蘭陸運支局において認証式が行なわれました。当社を代表して北海道地区の水の上統括工場長が圓山北海道運輸局室蘭運輸支局長から認証書を授与されました。

今回認証を受けた自動車分解整備事業により、当社が得られる第一のメリットは、レンタカーの自社内点検ができることで、これにより整備コストを大幅に削減できます。また時間的な口

スも抑えられることから、より効率的な運用が実現できるものと想定しています。当社では全国の主要な整備工場で、自動車分解整備事業の認証の取得を目



認証書を授与される北海道地区担当統括工場長・水上貞光

指しており、函館、札幌、京浜、千葉中央、新木場と漸次広げていく計画です。これら整備部門のスキルアップにより高品質で安全な建機レンタルをお客様に提供してまいります。☑

当社は公募増資と第三者割当増資、自己株式売却を併せて実施

9月8日付ならびに同月19日に開示いたしましたとおり、当社は公募増資と第三者割当増資、自己株式売却を併せて実施、約33億円を上限とした資金調達を行います。今回の資金調達によって得られた資金は、主にレンタル資産の設備投資及び借入金返済に充てます。

内訳は、公募増資が260万株、野村證券株式会社を引受先とする第三者割当増資が上限45万株の新株発行と、併せて自社株式40万株を売却いたします。この結果、増資後の発行済株式総数は約3,330万株、株主資本は約100億円となる予定です。kca

発寒メガステーション閉鎖にともなう移転について

現場に必要なあらゆるものを一箇所でお手配いただける「ワンストップレンタル」をご提供する複合拠点として、当社鉄鋼事業部・札幌事業所ならびに関連子会社の株式会社アシストと株式会社SRGカナモトを収容してきた発寒メガステーション。近隣に小・中学校や民家があるほか、敷地内の設備も老朽化してきたことから、このたび施設を閉鎖、それぞれ移転することになりました。

そのうち札幌鉄鋼事業所は、ゼネコン各社が集中する札幌市中心部に営業の拠点を移し、また、鋼材在庫については顧客の利便性を考慮して、これまでと同様、ファブリケーターが多い鉄工団地に倉庫を残しました。一方、SRGカナモト・札幌機材センターとアシスト・

札幌営業所は、札幌市に隣接する北広島市に新築移転しました。

加えて、アシストについてはデリバリー基地として、これまでの札幌営業所(発寒)に程近い北区新川に札幌西出張所を新設、札幌市中心部を境に東西に拠点を配置することで、より広域にサービスを提供できる体制となりました。

関連会社各社は10月10日から、当社鉄鋼事業部は16日からそれぞれ新事務所での営業を開始。

今後も各社の営業強化はもちろんのこと、グループ間の連携を強めながら、総合レンタル業としてお客様のお役に立てるよう取り組んでまいります。kca



上海金和源設備租賃有限公司を設立

8月31日付のプレスリリース『合併会社設立に関するお知らせ』でご案内いたしましたとおり、当社は中華人民共和国上海市において建機レンタルならびに建機・建築部材の輸出入を事業目的とする『上海金和源設備租賃有限公司』を、上海米源国際貿易有限公司(上海市、陳志峰社長)、オリックス株式会社(東京都、藤木保彦社長)との合併で設立・運営することとなりました。同日、中国上海市の錦江飯店で執り行われた調印式には三社の関係者総勢50余名が集まり、華やかな式典となりました。

共同出資先である上海米源国際貿易の陳社長は、中国でクレーンリース事業と飲料自販機のオペレーション事業を手がけています。

中国では北京五輪や上海万博といったビッグプロジェクトのほか、道路網や鉄道建設、第二期天然ガスパイ

プライン敷設といった大型インフラ整備が予定されており、今後、建機のレンタル需要が高まる見通しです。当社のレンタルノウハウと上海米源の顧客管理ノウハウで、事業の早期確立を目指します。

今回の合併事業は、当社にとって初の海外進出となります。☑



左から上海米源国際貿易有限公司・陳社長、当社社長・金本寛中、オリックス株式会社・藤木社長の代理として川村取締役



スピーチする当社名誉会長の金本太中

Lineup 取扱商品のご紹介

今回の取扱い商品紹介コーナーでは、大気中のアスベスト濃度を即座に測定できる「リアルタイムモニター」と、遠隔操作が可能で斜面にも対応した草刈機「スパイダー」をご紹介します。

リアルタイムモニター「ARM-2」

「リアルタイムモニター」は、レーザーで大気中のアスベストの数を測定して濃度を検出する装置です。

この機械の優れているところは、測定部位の先端に装備した灰化装置がアスベスト以外の物質を燃焼させるため、極めて高い精度の結果を得ることができる。そして、声高に言いたいのは現場で即座に測定結果がわかるという点でしょう。従来は、サンプリングした空気を検査機関に持ち込まなければならず、その結果が出るまでに数週間を要していました。しかしこの装置を使えば、その場ですぐに作業現場の汚染状況を確認できるため、作業効率が大幅にアップします。負圧集塵機などとともに、アスベスト除去の最新鋭機器として欠かせない機械です。☑



スパイダー

ユアサ商事株式会社(<http://www.yuasa.co.jp/>)の無線遠隔操作式斜面対応ロータリー草刈機「スパイダー」は、男の子が大好きなラジコンカーのようにコントローラーを操作しながら、草刈作業を行なえるというもの。何もそこまでしなくても...とお思いかもかもしれませんが、工事現場などの草刈作業は急な斜面であったり、弾き飛んだ小石でケガをしたりと危険がいっぱいですので、遠隔操作には大きなメリットがあります。一見するとおもちゃのようですが、四輪駆動で360度自在に移動できるほか、40度の急勾配でもいとも簡単に作業できます。1時間で2,000㎡程度、人手に換算すると4~5人分の作業がこの1台でできます。☑



急な斜面もへっちゃらなスパイダー

カナモトのCSRの取り組み『環境編』

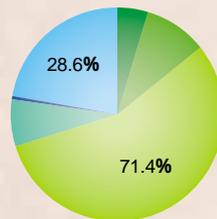
CSR

ここ数年で広く一般に認知されてきたCSR(Corporate Social Responsibility)。企業の社会的責任と紹介されています。簡単にいうと、従来の雇用・納税といった法的責任に留まらず、企業は経済・社会・環境に対しても幅広い責任を有しているという考え方で、今後企業が持続的な成長を遂げていくには、社会の一員としてCSRを全い、かつ実践していくことがますます重要視されるようになっていきます。そこで、本号ではCSRでも環境にスポットを当て、カナモトの持続的な社会の構築に向けた取り組みを簡単にご紹介いたします。

レンタルという環境配慮型のビジネス、環境にやさしいレンタル資産群

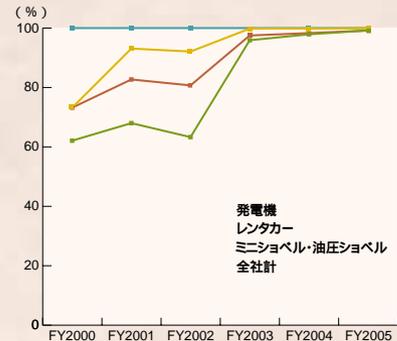
レンタルというビジネスモデル自体が環境配慮型と言えるでしょう。なぜなら、レンタルは「保有価値」より「使用価値」に重きを置いており、「モノ」をシェアして使用するシステムですから、社会の省資源、省エネルギーにつながるからです。当社のレンタル資産のうち、内燃機関、いわゆるエンジンのついた機械の約99%が公害対策規制をクリアした機種です。約40万点にのぼる膨大なレンタル資産を毎年、計画的に更新している結果で、常に環境負荷の少ない最新のラインナップで形成しています。この当社の主力事業を広く利用いただくことで、お客様の環境経営のお手伝いことができ、加えて社会全体の環境保護へとつながると自負しております。これからも社会の一員であることを認識し、CSRへの取り組みを着実に実践していくことで、企業価値の最大化を図ってまいります。 

低排出ガス車の導入率



平成17年基準75%低減レベル)
 平成17年基準50%低減レベル)
 平成17年基準50%低減レベル)
 平成12年基準50%低減レベル)
 平成12年基準25%低減レベル)
 非低排出ガス車両 計

公害対策機の導入率



レンタルする建機の99%が、
 環境保全を重視した公害規制をクリアしたものです。

事務センターって何をするところ？

Clerical Center



本格始動した東京事務センター

事務センターは、従来、各営業所ごとに行っていたお客様への請求業務を集約し、一元管理する部門です。

これにより、当社の複数の営業所とお取引をいただいているお客様のお支払い事務負担が軽減されます。同時に、当社の営業部門から煩雑な請求業務が分離されることにより、業務効率の改善と内部牽制も期待でき、今後の内部統制確立へ向けた布石の1つでもあります。現在、札幌事務センターで北海道全域の請求業務管理を行っているほか、本年5月に開設した東京事務センターでは、関東信越地区の請求業務一元化を行う予定です。

更に東北地区と近畿中部地区にも開設を検討中です。 

第42期第3四半期財務・業績の概況 [2005(平成17)年11月1日から2006(平成18)年7月31日まで]

経営成績(連結)の進捗状況

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
42期第3四半期	50,226 (8.3)	3,054 ()	2,934 ()	1,088 ()	36.48
41期第3四半期	46,374 (4.3)	170(74.4)	14(97.5)	349 ()	11.71
(参考)41期通期	63,975	1,404	1,550	352	11.57

(注)売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

経営成績(連結)に関する説明

経営環境

当第3四半期までの日本経済は、原油高や金利上昇リスクといったマイナス要因があったにもかかわらず、製造業などの設備投資は、引き続き増加傾向にあり、堅調に推移しました。

また、不動産関連なども好調を維持したものの、復調の兆しのあった個人消費は6月以降鈍化をはじめると、経済弱者層や地方と呼ばれる地域にとっては相変わらず景気回復感の伴わない状況が続きました。

第3四半期までの業績結果

主力事業の建設関連事業では、建機レンタルで公共事業が閑散期であったものの、民需確保を狙い積極的な営業展開を行った結果、堅調に推移しました。同事業による販売も、国内販売・海外向け中古機販売ともに堅調で、前年同期を上回りました。

鉄鋼製品販売事業は、札幌市周辺部における店舗、工場新築などの民間設備投資の受注が比較的順調だったこと、また、情報通信関連事業は製品販売が好調に推移、両事業とも前年同期を上回る順調な結果となりました。

一方、利益面では、レンタル用資産の運用効率の向上、

単価維持と減価償却負担軽減など、ここ数年の施策効果が具現化し、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前年同期実績を大幅に上回る状況で推移しました。

この結果、平成18(2006)年10月期第3四半期終了時点での連結売上高は502億26百万円(対前年同期比8.3%増)、営業利益は30億54百万円(同1694.6%増)、経常利益は29億34百万円(同20094.5%増)、純利益は10億88百万円(同411.4%増)となりました。また、当期から適用しております「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失額として、当第3四半期までに594百万円を計上しております。

特記すべき事業展開と拠点新設・閉鎖の状況

当第3四半期における拠点の新設は、5月に三条営業所(新潟県三条市)と、占冠出張所(北海道勇払郡)の2ヵ所でした。閉鎖はありませんでした。

第4四半期には(仮称)大宮営業所(さいたま市西区)(仮

称)千葉新港営業所(千葉市美浜区)を新設する予定です。なお、8月31日既報のとおり、中国上海市に合弁で上海金源レンタル有限公司を設立することとなりました。当社初の海外進出であります。

財政状態(連結)の変動状況

	総資産 (百万円)	株主資本 (百万円)	株主資本比率 (%)	一株当たり株主資本 (円)
42期第3四半期	83,639	34,676	41.5	1,162.02
41期第3四半期	86,152	32,319	37.5	1,082.53
(参考)41期通期	81,977	33,465	40.8	1,120.76

連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	現金及び現金同等物 期末残高 (百万円)
42期第3四半期	6,885	151	3,368	17,473
41期第3四半期	11,609	440	2,745	20,158
(参考)41期通期	10,219	11	7,833	14,108

第42期(2006年10月期)の連結業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	EPS (円)
通期(予想)	66,050	3,630	3,420	1,260	42.21

業績予想に関する定性的情報等

現時点までの業績は、概ね本年5月25日に上方修正した計画に沿って推移しております。ただ、8月以降、残暑や台風による工事遅延もみられ、地方の僅かな公共事業も後倒しになることが予想されますが、通期の連結業績予想は発表済みの数値(本年6月9日発表の中間決算短信にも掲載)から変更しておりません。

また、この業績予想については、本資料の発表日現在に

おいて入手可能な情報及び将来の経済環境予想等に基づいて予測し作成したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。

従いまして、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場動向、競合状況等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性がありますのでご承知おきください。

連結財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)	41期第3四半期 (2005.7.31)		42期第3四半期 (2006.7.31)		(単位:百万円)	41期第3四半期 (2005.7.31)		42期第3四半期 (2006.7.31)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
資産の部					負債の部				
流動資産	34,515	40.1	33,054	39.5	流動負債	30,284	35.1	27,377	32.7
現金及び預金	20,166		17,476		支払手形及び買掛金	11,779		11,718	
受取手形及び売掛金	11,331		13,056		短期借入金	3,558		475	
たな卸資産	781		931		1年以内返済予定の長期借入金	10,818		10,583	
建設機材	1,587		1,231		未払法人税等	142		726	
繰延税金資産	222		197		賞与引当金	201		214	
その他	1,074		695		役員賞与引当金	-		4	
貸倒引当金	650		534		未払金	3,142		2,297	
固定資産	51,637	59.9	50,585	60.5	その他	641		1,357	
有形固定資産	44,509	51.7	42,729	51.1	固定負債	23,482	27.3	21,494	25.7
レンタル用資産	10,247		9,191		長期借入金	19,904		17,830	
建物及び構築物	6,605		6,162		退職給付引当金	1,425		1,650	
土地	26,205		25,888		役員退職慰労引当金	125		125	
その他	1,451		1,486		長期未払金	1,964		1,751	
無形固定資産	724	0.8	577	0.7	その他	62		137	
連結調整勘定	461		357		負債合計	53,767	62.4	48,872	58.4
その他	262		220						
投資その他の資産	6,402	7.4	7,278	8.7	少数株主持分				
投資有価証券	4,941		6,090		少数株主持分	65	0.1	91	0.1
繰延税金資産	506		-						
その他	2,178		2,020		資本の部				
貸倒引当金	1,223		832		資本金	8,596	9.9	8,596	10.3
資産合計	86,152	100.0	83,639	100.0	資本剰余金	9,720	11.3	9,720	11.6
					利益剰余金	12,989	15.1	14,235	17.0
					その他有価証券評価差額金	1,198	1.4	2,320	2.8
					自己株式	184	0.2	197	0.2
					資本合計	32,319	37.5	34,676	41.5
					負債・少数株主持分及び資本合計	86,152	100.0	83,639	100.0

損益計算書

(単位:百万円)	4 1期第3四半期 (2004.11.1 - 2005.7.31)		4 2期第3四半期 (2005.11.1 - 2006.7.31)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	46,374	100.0	50,226	100.0
売上原価	36,019	77.7	36,699	73.1
売上総利益	10,354	22.3	13,526	26.9
販売費及び一般管理費	10,184	22.0	10,471	20.9
営業利益	170	0.3	3,054	6.0
営業外収益	291	0.6	249	0.5
受取利息	3		0	
受取配当金	47		38	
投資有価証券売却益	28		19	
受取賃貸料	68		65	
その他	144		124	
営業外費用	446	0.9	369	0.7
支払利息	268		262	
その他	178		106	
経常利益	14	0.0	2,934	5.8
特別利益	107	0.2	38	0.1
特別損失	287	0.6	645	1.3
税金等調整前四半期(当期)純利益(:純損失)	165	0.4	2,327	4.6
法人税、住民税及び事業税	83	0.2	1,146	2.3
法人税等調整額	94	0.2	71	0.1
少数株主利益	6	0.0	20	0.0
四半期(当期)純利益(:純損失)	349	0.8	1,088	2.2

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	4 1期第3四半期 (2004.11.1 - 2005.7.31)		4 2期第3四半期 (2005.11.1 - 2006.7.31)	
	金額	金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,609	6,885		
投資活動によるキャッシュ・フロー	440	151		
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,745	3,368		
現金及び現金同等物の増加額	8,424	3,364		
現金及び現金同等物の期首残高	11,734	14,108		
現金及び現金同等物の期末残高	20,158	17,473		

とってもいいモノ・読者プレゼント

ハガキをご返送いただいた方の中から抽選で、小誌P.5でご紹介した取扱商品のメーカーのノベルティグッズを差し上げます。今回のプレゼントは、ボールペンとトートバッグのセットです。

ボールペンはユアサ商事株式会社様のオリジナルで、ボディには本誌でご紹介した「spider」のロゴ入り。とてもシンプルなデザインですが、ペン軸の出し入れは手軽なノック式、グリップ部は疲れにくいラバーグリップと使いやすい設計です。

一方、トートバッグは当社オリジナル。ナイロン製なのでとても丈夫で、お買い物やちょっとしたお出かけなど、さまざまなシーンでお使い頂けます。

これをセットにして30名様にプレゼントいたします。ふるってご応募ください。



なお、締め切りは11月11日(当日消印有効)です。当選の発表は発送をもって替えさせていただきます。

株主様からのご質問に答える

Q & A コーナー

株主の皆様からカナモトに寄せられたご質問をご紹介します、誌上でお答えしています。

Q 災害時におけるレンタル協定の記事を興味深く拝見しました。自治体側のメリットは理解できるのですが、カナモトにとってどんなメリットがあるのかを教えてください。

A 今年7月の梅雨前線停滞による大雨の被害は、まだ皆様の記憶に新しいことと思います。このような自然災害による被害が近年、各地で多く発生しています。各地方自治体は緊急時に地域住民に対して速やかな対応をすることが求められており、レンタル協定は自治体の資金面、管理面を補完し即応の体制の強化向上につながるものであります。

一方当社にとりましては、被災地域の復旧活動に必要な機材の種類・台数の目処・目安がたてやすくなり、輸送面でも便宜が図られることにより供給体制が一層強化されます。この事は、当社の事業収益拡大に貢献となるものであります。同時に広域建機レンタルの優位性を大いに発揮する事ができます。まさに業界の認知向上と社内意識向上、官民協力体制の向上につながります。📌

Q 株主として投資先のロゴマークを見る機会が多いと嬉しいものです。レンタルしている建設機械などにはどのような形で表示されているのでしょうか？

A 街中で建設機械を見ると、我々社員でも当社のレンタル機械では？と気になるものですが、株主の皆様も同じ思いでいただいていることを知り、とてもありがたく思います。当社の製品には、これまでKanamotoというアルファベットの表記と青い四角に白の抜き文字のKanamotoというどちらかというシンプルなデザインのステッカーを貼付していましたが、小誌(第33号)でご案内しましたように、今期から当社のオリジナルキャラクター「カナモト坊や」とKanamotoのロゴを組み合わせた新ステッカーを貼付しています。当社整備スタッフの制服であるオーバーオール姿の「カナモト坊や」と、カナモトのスクエアマーク。「信頼」のライトグレーに、「誠実」のライトブルーのステッカーで日本全国に安心をお届けしようというもの。皆様の街でたくさん見ていただけるよう社員一同更に頑張っていきます。

ところで、この「カナモト坊や」、1996年に幼児向けキャラクターとして当社ホームページに掲載してから早いもので10年もの月日が経ちました。最近になって、当社のマスコットキャラクターとして認知され、新聞広告やノベルティ製品にも積極的に使用しています。📌



機体横のほか、アーム部分と機体後方にもロゴマークを貼付(表紙も参照ください)

株価チャート(週足)



株価および売買高(東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2005年 9月	681	720	656	713	872
10月	719	749	710	730	1,593
11月	733	763	692	706	1,496
12月	704	780	703	776	2,108
2006年 1月	778	880	743	841	1,582
2月	841	845	700	741	707
3月	748	869	740	861	1,020
4月	856	925	856	925	1,693
5月	924	1,002	905	977	2,168
6月	969	1,091	920	1,081	2,884
7月	1,076	1,147	990	1,100	2,648
8月	1,110	1,130	1,042	1,064	1,040

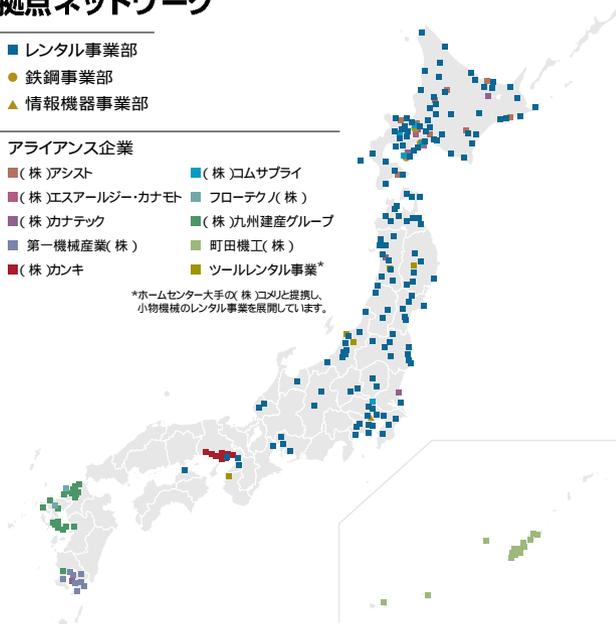
拠点ネットワーク

- レンタル事業部
- 鉄鋼事業部
- ▲ 情報機器事業部

アライアンス企業

- (株)アシスト
- (株)エスアールジー・カナモト
- (株)カナテック
- 第一機械産業(株)
- (株)カンキ
- (株)コムサプライ
- フローテック(株)
- (株)九州建産グループ
- 町田機工(株)
- ツールレンタル事業*

*ホームセンター大手の(株)コムと提携し、小物機械のレンタル事業を展開しています。



当社及び当社グループ営業拠点エリア別内訳 2006年9月現在

	カナモト	連結対象会社	その他アライアンスグループ	計
北海道	57	14	4	75
東 北	43	1	2	46
関 東	27	1	1	29
中 部	15	-	2	17
近 畿	5	8	1	14
中 国	-	-	-	0
四 国	1	-	-	1
九 州	-	9	24	33
沖 縄	-	-	15	15
計	148	33	49	230

編 集 後 記

小誌第3四半期号はいかがでしたか? 上海進出や自動車分解整備事業認証工場指定など、少しずつですがお伝えすべき話題が厚くなってきた感があります。とはいえ、まずは何と言っても業績ですよね。当社の第3四半期は新年度のスタートと重なるため、公共工事の着工も少なく収益が落ち込む時期なのですが、今期はいい調子に推移しました。特に目を引くのが東北地区の建機レンタルの快進撃。決して多いとは言えない公共工事を取りこぼさず、更に民需も的確に受注し売上に結びつけました。未だ景気回復途上の北海道はレンタル料金の価格競争が拡大し、前年同期と変わらない売上高を確保するに留まりましたが、関東・信越や近畿・中部、九州では好調に推移しています。

ところで、今夏の高校野球の決勝戦、駒大苫小牧対早稲田実業の試合は凄かったですね。延長引き分け再試合。駒苫の三連覇はなりませんでしたが、感動・感動・大感動でした。それにしても高校野球がこれだけ人気があるのは、なんといっても彼らの眩しい笑顔にあるのでしょうか。早実の「ハンカチ王子」斉藤投手の笑顔も端正で知性的でしたが、やっぱり駒苫の田中投手と本間選手の満面の笑みが抜群だったと思うのは少々手前味噌を並べすぎでしょうか。野球といえば北海道日本ハムファイターズのレギュラーシーズン1位も道産子にはうれしいご褒美でした。北海道は巨人ファンが多い地域だったのですが、今や巨人はどこ吹く風。日本ハムのように、地方に本拠地を置く球団経営は決して楽ではない筈。しかし地元色々な形で溶け込み、熱烈的なファンクラブを組織するなどの経営努力が開花したのでしょうか。戦術も長打一発から犠打で送ってヒットで確実に点を獲得するスモールベースボールの全員野球が奏効していますし、この経営、そして戦術、当社も見習わなければと思います。

唯一、惜しむらくは駒苫田中君を北海道に引き止めることが出来なかったクジ運と、新庄選手が引退してしまうことでしょうか。👏



(東証一部・札証 証券コード: 9678)
〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19
Tel : (011)209-1600(大代表)
<http://www.kanamoto.co.jp>

株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます(具体的な実施日は政令で決定されます)。「株券の電子化」の詳細につきましては、日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

証券受渡・決済制度改革懇談会事務局 TEL. 03-3667-4500 ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>

株主メモ(2006年9月30日現在)

資本金 85億9,673万円(払込済資本金)

発行株数 30,253千株(発行済株式総数)

決算期 毎年10月31日(年1回)

株主総会 毎年1月中

同総会議決権行使株主確定日 毎年10月31日

利益配当金受領株主確定日 毎年10月31日

中間配当金受領株主確定日 毎年4月30日

公告の掲載 当社ホームページ、日本経済新聞*

お手持ちの株券に関するお手続きのほか、住所、名義、届出印、配当金の振込み口座などの変更をご希望の場合は、下記<名義書換代理人>宛てにご連絡をいただきたく、お願いいたします。

なお、株券を証券会社に預託されている場合は、当該証券会社へご連絡下さいますようお願い致します。

名義書換代理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒171-8508

および電話照会先 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696(フリーダイヤル)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ(<http://www.kanamoto.co.jp>)または(<http://www.kanamoto.ne.jp>)に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。